

## 多職種連携教育 (IPE) に関する国際的な研究動向について

村田憲章、松井由美子、高橋直樹、真柄彰  
新潟医療福祉大学 新潟連携教育研究センター運営委員会

【背景・目的】現在日本では、“医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に対応した医療を提供する”<sup>1)</sup> チーム医療の展開が推進されている。保健・医療・福祉の分野においてチーム医療に対応することができる質の高い専門職を養成するためには、多職種連携教育 (IPE: Interprofessional education) が必要不可欠であり、本学においても独自のカリキュラムを展開している。本学における IPE 関連科目は「チームアプローチ入門」、「連携基礎ゼミ」、「保健医療福祉連携学」、「連携総合ゼミ」が挙げられる。

英国の CAIPE (Centre for Advancement of Interprofessional education) は IPE について“複数の領域の専門職者が連携およびケアの質の改善するために、同じ場所でもともに学び、お互いに学び合いながら、お互いのことを学ぶこと”と定義している<sup>2)</sup>。また IPE の取り組みは各国でネットワークが構築されており、我が国においては 2008 年に日本インタープロフェッショナル教育機関ネットワーク (Japan Interprofessional Working and Education Network: JIPWEN) が設立された。海外においては CAIPE をはじめ、オーストラリアとニュージーランドの Australian Interprofessional Practice and Education Network (AIPPEN)、カナダの Canadian Interprofessional Health Collaborative (CIHC)、米国の American Interprofessional Health Collaborative (AIHC)、欧州の European Interprofessional Practice and Education Network (EIPEN) 等が存在する。

本研究では IPE に関連する海外の主要な論文の調査を行うことで、今後研究活動を展開していくための出発点を明確なものにすることを目的とした。

【方法】「Scopus<sup>3)</sup>」を用いて、2017 年 8 月 21 日現在、「IPE」をキーワードとして検索を行った。検索モードは“論文タイトル、抄録、キーワード”とした。検索結果にて被引用数が多い順に並べ替えを行い、IPE に関連する文献の被引用数上位 5 位を割り出した。他分野の文献において「IPE」の略語が用いられているものは目視にて除外した。

【結果・考察】上位 5 件は Hammick らの報告<sup>4)</sup>(被引用数 435)、Reeves らの報告<sup>5)</sup>(243)、同じく Reeves らの報告<sup>6)</sup>(238)、Oandasan らの報告<sup>7)</sup>(209)、Thistlethwaite の報告<sup>8)</sup>(148)で、いずれも Review article であった。Hammick らの報告<sup>4)</sup>(英国) は IPE の最良な評価法を特定すること、IPE による

成果を分類しその影響を評価すること、IPE によるポジティブまたはネガティブな成果の啓発法の発達を目的とした。Reeves らの報告<sup>5),6)</sup>(カナダ、英国) は、同医療従事者同士が個別に学ぶ方法と、多職種間で学び合う方法を比較し、IPE 介入の有効性を評価することを目的とした。Oandasan らの報告<sup>7)</sup>(カナダ) は、専門資格取得前と資格取得後、両者における IPE 教育に関するものであった。Thistlethwaite の報告<sup>8)</sup>(オーストラリア) は、今後 IPE に最も必要とされる研究課題を定義、および探求することを目的としていた。

いずれの Review も、IPE 教育の優良な点とその弊害について評価した報告であった。また単一の原著論文の比較では各教育機関における IPE イニシアチブが多様であること、データの欠損が存在することなどを理由に、統一された教育効果の評価が困難である。教育的視点による学習効果の定義が上記 5 つの Review article によってなされていた。

【結論】IPE に関連する論文を被引用数上位 5 位まで評価した結果、英国・カナダ・オーストラリアを中心に先駆的な研究がなされていることが考えられた。IPE の啓発および研究の推進のためには、他教育機関の原著論文を多数検討していく必要性が示唆された。

### 【文献】

- 1) 厚生労働省, チーム医療の推進について (案)  
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-8b.pdf>,  
2017 年 8 月 21 日
- 2) CAIPE, home  
<http://www.caipe.org.uk/>, 2017 年 8 月 21 日
- 3) Scopus  
<https://www.scopus.com/>, 2017 年 8 月 21 日
- 4) Hammick M, Freeth D, Koppel I, et al.: A best evidence systematic review of interprofessional education: BEME Guide no.9. Med Teach, 29(8) : 735-751, 2007.
- 5) Reeves S, Zwarenstein M, Goldman J, et al.: Interprofessional education: Effects on professional practice and health care outcomes. Cochrane Database Syst Rev 1, CD002213, 2008.
- 6) Reeves S, Perrier L, Goldman J, et al.: Interprofessional education: effects on professional practice and healthcare outcomes (update). Cochrane Database Syst Rev 3, CD002213, 2013.
- 7) Oandasan I, Reeves S, et al.: Key elements for interprofessional education. Part 1: The learner, the educator and the learning context. J Interprof Care 19(SUPPL. 1) : 21-38, 2005.
- 8) Thistlethwaite J: Interprofessional education: A review of context, learning and the research agenda. Med Educ 46(1) : 58-70, 2012.